

マイプロジェクト  
に学ぶ

# 探究が蒔いた 未来の種

最終回

## 社会に開かれた学校づくりは 地域の本気を巻き込んでいく！

— 高校生と地域が協働する広島県立大崎海星高校の現場から —

エントリー締切が間近に迫る全国高校生マイプロジェクトアワード。全国13会場十オンライン大会に7000人の高校生が集まる舞台が、今年も開幕します。審査基準「協働性」の評価において、前回大会で大きな存在感を示したのは「地域みらい留学」の高校生たち。その舞台裏に迫る連載最終回です。

### 都会から田舎の高校へ あえて進学する選択肢

「地域みらい留学」という進路を知っていますか？ 親元を離れ寮などで暮らしながら、地方の高校で学ぶ仕組みです。海士町の「島留学」から始まり、今では全国55の高校へと拡がりました。

神奈川県出身のげんたくんの場合、島根県立津和野高校を選択。津和野に広がる放置竹林に注目した彼は、行政や地域を巻き込んで竹についてのプロジェクトを実行しました。

その実績が評価され、この春なんと東京大学の推薦入試に合格。都会で埋もれるよりも、地域と協働しながら学ぶことで可能性が芽吹く。その仮説は、今まさに証明されつつあります。

だからこそ全国高校生マイプロジェクトアワードは、「協働性」を審査基準に位置づけています。

● 多様な人たちと対話し、協力しながら取り組んできたか  
● 独りよがりではなく周囲に好影響を与え、価値を創りだしてきたか  
いずれも、これからの時代に求められる資質です。

### 教育者の議論に、 高校生を混ぜた夏

瀬戸内海にも「地域みらい留学」の人氣校があります。広島県立大崎海星高校は学年1クラス、全校生徒は100名ほどの小さな高校ですが、そのうち2割が全国各地から集まっています。大阪から進学したのは、高校3年生の

ことねさん。「みりよくゆうびん局」というユニークな部活動に所属し、放課後になると地域にどんどん飛び出して活動しています。例えば・Uターンして島で働く大人をインタビュー。計100人以上のはたらきかたを掲載した『島の仕事図鑑』シリーズを発行しています。

私が初めて大崎海星高校を訪れたのは去年の夏休み。全国の教育関係者と大崎海星高校の先生方30名ほどで、新しい教育について語る「二泊三日の合宿『SCHネットワークシンポジウム西日本』」が行われたときのことでした。

私を島に招待してくれたのは、魅力化コーディネーターの取釜宏行さん。この島の出身者で、大崎海星高校を廃校の危機から救うため都会での武者修行の成果を存分に発揮。当時の校長は、「ハシゴは

### SCHネットワークシンポジウム西日本



広島県立大崎海星高校、魅力化コーディネーターの取釜さん



高校生が描いたウェルカムボード



教育についての議論が、教員・高校生混ざりながら進行



瀬戸内海の海と集合写真



認定NPO法人カタリバパートナー  
今村 亮

1982年熊本生まれ。東京都立大学卒。創業期からのディレクターとして、カタリバ事業、カタリバ大学、中高生の秘密基地b-lab、コラボ・スクールまじき夢創塾、全国高校生マイプロジェクト事務局を手がける。文部科学省熟識協議員、岐阜県教育ビジョン検討委員会委員を歴任。2019年に独立し、桜美林大学で「ディスカバ！」立ち上げ中。慶應義塾大学にて非常勤講師を兼務。共著「本気の教育改革論」(学事出版)。

外さんけえの」と語ったといいます。

フエリーで島に着いた私たちを待ち受けていたのは「みりよくゆうびん局」の高校生たち。その中に、こねさんもいました。彼女たちの案内で、私たちは島をぐるりと見学し、海やブルーベリー畑を満喫しました。

翌日、高校生の司会でシンポジウムが始まりました。全国の先生方は教育実践を紹介し、悩みを語りました。高校をどう地域とつなぐか？ 職員室をどう巻き込むか？ 生徒たちをどう動かすか？ 普段だったら、高校生を前にして話すような内容ではありません。

最初は様子をうかがっていたことねさんたちも、少しずつ関心を示し始めます。やはり自分たちが受けている教育に問題意識があるわけです。

ある先生が「タブレットを配っても生徒はすぐ遊び始める」と悩みを伝えると、そういう生徒がいるから困るよね、と共感しました。また別の先進校の事例を、うらやましそうに聞き入りました。

そこで私が「高校生の社会参画が日本の課題」「やらされ探究学習が広がっている」という問題意識を発表したものでから、ついに高校生たちは熱く語り始めました。

「自分たち高校生にはやりたいことくらいある、軽く見ないでほしい」。こうなると、もう止まりません。「授業がつまらないから悪い」「意識の低い生徒が悪い」「リ

ードできない生徒会が悪い」「形だけの総合学習が悪い」「自由にさせてくれない先生が悪い」...

### 高校生には行動する覚悟があるか？

その様子を遠巻きに眺めていたのは校長でした。その夜、本音を漏らししました。「結局あいつらは評論家なんじゃ。やりたいならやればいいんじゃない。なんでワシに言わんのんじゃ」。こういふときの広島弁は迫力があります。

最終日の朝、どうなるかなと見ていたら、生徒たちは自分たちだけで集まって議論を始めました。じゃあどうする？ と。自分たちの高校を面白くするために、自分たちに何ができる？ あれをしたい、これをしたい。そのプランを会の最後に発表したら、会場は大喝采！

教育者の想定を追い越して、めきめきと成長していく高校生たち。その姿は、私たちの胸を打ちました。

やがて、腕組みして眺めていた校長は、閉会挨拶を謝辞でしめくくった後、生徒に向き直ってこう語りました。

「君たち、わかるか？ 物事にはコストと費用がある。メリットがなければコストは支払えない。それをマネジメントすることもまた教育だ」。説教になりそうなお切り出し方に、生徒たちはうつむきました。校長はまだ怒っているのかもしれない。

そして続けました。「お前らがやりたいなら、コストはワシがなんとかしやる。やり切れよ」。その目は「ハシゴは外さんけえの」と語っているように見えました。高校生たちから歓声があがり、取釜さんがこみ上げた涙を隠したことを、私は見逃しませんでした。

### 探究は連鎖し、学びの生態系をつくる

さて、あれから二年。彼女たちは一体どうしているでしょうか？ なんと宣言したとおりのプランをやり遂げて、この夏ついに学校紹介ムービーをYouTubeで公開。ディレクターをつとめたのがことねさんでした。想いが想いを引き寄せて、普段はできないドローン撮影も実現。海や空の美しさは必見です。

このように、本気でぶつかりあって生まれた言葉は行動につながります。大人たちの本気に子どもたちが巻き込まれ、子どもたちの探究心で大人との協働が深まっていく。その連鎖で織りなされる生態系こそが、社会に開かれた学校づくりの真骨頂なのです。

まだまだ紹介したい事例は山積みですが、この連載もあつという間に最終回。全5回の事例集は終わります。これからも、探究をめぐる私の探究は終わりません。読者の先生方と、現場でお会いできることを楽しみにしています。きつとまたどこかで！

### 全国アワード参加者募集中

#### マイプロジェクトとは

自分だけのテーマを探究した高校生たちが集う全国最大級の「学びの祭典」。グランプリには文部科学大臣賞を授与。全国13地域+オンラインで開催！ 高校生の挑戦をお待ちしています。  
エントリー締切 12月15日(日)  
<https://myprojects.jp/>

### 地域みらい留学生



島根県立津和野高校(当時)のげんたくん。全国高校生マイプロジェクトアワード2017でベストラーニング賞に輝いた



広島県立大崎海星高校、みりよくゆうびん局で活躍することねさん

### みりよくゆうびん局の活動



制作した学校紹介動画「瀬戸内×青春」(YouTube)にはディレクターを務めたことねさんも出演



学校の魅力を伝えるときには、ポスト姿になる



生徒が地域の人たちと作った「島の仕事図鑑」